

大小の関係を表す式

例1. 1冊a円のノート2冊と1本b円の鉛筆3本を買うと、500円でおつりがあることは、不等号を使って

$$\square a + \square b \square 500 \quad \text{と表したり、}$$
$$500 \square \square a + \square b \quad \text{と表せる。}$$

- 上のように、数量の大小関係を不等号を使って表した式を \square という、
- 不等式でも、等式と同じように、不等号の左側にある式を \square 、右側にある式を \square 、これらを合わせて \square という。
- 2つの数量の大小関係を表す記号の意味：

$$a > b \quad \dots \quad a \text{は} b \square$$

$$a \geq b \quad \dots \quad a \text{は} b \square \quad (a \square b \text{ または } a \square b)$$

$$a < b \quad \dots \quad a \text{は} b \square \quad , \quad a \text{は} b \square$$

$$a \leq b \quad \dots \quad a \text{は} b \square \quad (a \square b \text{ または } a \square b)$$

- 記号 \leq 、 \geq で数量の大小関係を表した式も、 \square という。

例2. (1) 1冊a円のノート2冊と、1本b円の鉛筆3本が400円で買えた。

この数量の間の関係を、不等式で表せ。

(2) x円持って買い物に行ったところ、持っていたお金で、2000円の辞書を1冊とy円の漫画を2

冊買えた。この数量の間の関係を、不等式で表せ。

例3. ある動物園の入園料は、大人1人がa円、中学生1人がb円である。このとき、次の等式や不等式はどんなことがらを表しているか。

(1) $2a + 3b = 1800$

(2) $a + 3b < 1500$

(3) $a - b = 400$

(4) $4a + 5b \geq 3000$